

採択大学：立命館大学（強化を図る機能：①、②）

連携大学：生理学研究所、滋賀医科大学、順天堂大学、大阪体育大学

参画機関：東京大学、滋賀大学、奈良先端科学技術大学院大学、立命館アジア太平洋大学、産業技術総合研究所、国立長寿医療研究センター

取組内容の概要

大学ビジョン

次世代の社会課題に対して多様なアクターとの共鳴と研究を通じて社会価値の創出に挑む次世代研究大学の実現

すべての人が他者から尊重・承認され、それぞれのありたいウェルビーイングを追求・実現することのできる公平な社会の実現

研究戦略

● 地球規模の課題解決に繋がる新たな研究の価値の創出と社会実装

● 研究の価値を社会に根付かせるイノベーション・創発性人材の育成

機能1. 身体圏研究領域の創成

強みであるスポーツ健康科学を核として、国内外トップ研究者を招聘し学際融合により国際身体圏研究拠点を形成することで多重環境化社会のウェルビーイング研究を牽引

機能2. イノベーション・社会実装力の向上

ELSI対応型データプラットフォーム、キャンパス実証実験、独自投資ファンド等で企業大型共同研究と社会実装力を強化

研究・イノベーション人材の育成

・身体圏学位プログラムの設置

・国際ネットワーク型育成体制

・インクルーシブ教育により多様性リーダーシップを修得

・博士アントレプレナー人材を育成

研究開発マネジメント改革・財務戦略

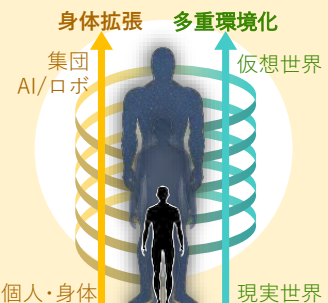
・技術系人材・高度専門URAを育成

・複線人事マネジメント改革

・研究時間創出に向けたDXと教員エフォート改革

・投資ファンド等による資金循環の実現

訪れつつある多重環境化社会において、身体を中心に人間関係・現実世界・仮想世界との相互作用からウェルビーイングを解明する「身体圏研究」による課題解決を目指す



身体圏

拡張された身体と多重環境間の相互作用の場

人類の課題

20万年にわたり適応・進化を続けてきた現実世界での生活から仮想世界が高度に融合した多重環境化社会への急激な変化

身体機能の相対的低下、対人コミュニケーションの希薄化、社会の複雑化による不安感等、多重環境化社会への移行が人の身体的・精神的・社会的健康に様々に影響



狩猟・採集社会
小集団・移動型

農耕・牧畜社会
中集団・定住型

工業化社会
大集団・越境型

情報化社会
個分散・非境界型



多重環境化社会
個共生・間境界型

人間の生活・行動範囲が現実世界から仮想世界へ拡張し、これまでにない多重な環境において人間関係を構築し、社会生活を営む時代



取組内容の時系列イメージ

		2025	2026	2027	2028	2029～	10年後の姿	
戦略1 身体圏研究領域の創成	①学際融合研究戦略の実行	対象PI選定・研究者採用	学際融合身体圏研究プロジェクト遂行・成果創出加速					
		連携機関とのクロアボ等の調整	次世代研究機構（仮称）設置・特区としての運用開始				国際学会の設置準備・運用	
	②身体圏研究の学際融合性を高める研究スキームの整備	研究設備導入	ウェアラブルMEG・クロスバースアリーナ等、世界唯一無二の共同利用拠点運用					
		機器共同利用運用体制整備	共同利用研究プロジェクトの遂行・共同研究成果創出					
		共同診療所設置準備・開設	共同診療所設置・生体データを安心して取得可能な体制を構築					
	③国際ネットワークの拡大	海外研究者招聘交渉・受入	招聘研究者のプロジェクト参画・成果創出加速					
	国際URAの採用	海外大学との組織連携構築・国際頭脳循環による共同博士・若手育成体制の構築						
戦略2 イノベーション・社会実装力の向上	①グラスルーツ・イノベーション・プラットフォームの構築	事業化マネージャーの採用	キャンパス実証フィールドの開発・運用、連携機関が持つ実証フィールド連携体制構築					
		企業入居室整備・運用開始	共用機器・企業用入居ラボ民間活用					
		VR・MRコンテンツ開発	アクティブライフ共創コンソーシアム企業増の営業活動	国際身体圏研究コンソーシアムへの発展的統合				
		GIC等との連携スキームの構築	GAPファンド・アクセラレーション機能強化					
			国内外スタートアップコミュニティとの連携強化					
	②横断型データプラットフォーム構築とデータ利活用による共同研究の推進	データマネジメント専門人材の採用	連携機関とのオープン＆クローズ戦略の構築	オープン部分を活用した民間企業とのデータ連携研究推進 データマネジメント・個人情報保護コンサルティングサービス開始				
	データ共有システム構築	コホートデータ接続		国際標準化に向けた取組				
戦略3 研究・イノベーション人材育成	①身体圏学位プログラムを中心とした博士アントレプレナーの育成	制度設計・学内調整	文科省届出		博士入学・学位プログラム開始			
		連携機関共同プログラム調整	共同博士・若手研究者育成プログラム開発・運用					
		海外研究機関交渉						
		DE&I教育プログラム開発	プログラム提供開始					
		小中高一貫教育体制を活かしたイノベーション創出を志す未来人材育成プログラムの企画・実施						
		UAユニットの組織化・専門人材採用	身体圏研究独自のURAスキル標準の設定・運用					
戦略4 研究開発マネジメント改革・財務戦略	①専門人材の組織化と人事システム改革	連携機関との共同育成体制の具体化	職員人事複線化開始		専門人材の安定的確保・育成		全学体制への波及拡大	
	②研究時間創出に向けたDXと教員エフォート改革	エフォート創出のための評価、授業担当システムの設計・刷新			運用状況の評価、制度改善			
		DX推進・ガバナンス改革による業務削減に向けた調整・実行			研究エフォートへの重点配分、運用状況の評価・改善			
	③独自投資ファンドの拡充による資金循環の多様化	1号ソーシャルインパクトファンド(RISF)出資継続						
		2号ファンド出資開始	連携機関への出資スキーム構築・出資					
		ファンドリターン等多様な財源からの再投資スキーム検討			重点研究・イノベーション創出支援への資金供給			
世界を牽引する学際融合研究・人材育成拠点の創成により研究と社会実装を循環させ、社会共生価値を創出する次世代研究大学を実現								

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）